

支部報告

『平成26年度診療報酬改定のポイントと「診療所の経営対応」』

広島県支部医業経営セミナーで、2025年のあるべき姿と具体策を交えて講演を実施

(公社)日本医業経営コンサルタント協会広島県支部は3月27日(木)、広島市で「平成25年度医業経営セミナーを開催した。講演は「平成26年度診療報酬改定のポイントと診療所の経営対応」(講師:ASK梓診療報酬研究所代表・中林梓氏)。

中林氏は今年1月から4月の間に120ヵ所で講演を行っている。そこで今回、広島県支部は診療所に的を絞ったテーマのセミナーとしたが、予想以上に好評で当日約180人(会員70人含む)が熱心に聴講した。中林氏は、社会保障・税一体改革で示された2025年モデルの実現に向けた2度目の改定となる今回の診療報酬改定のポイントを説明した。自院の方向性を定め、2025年のあるべき姿の実現と地域包括ケアでの経営戦略立案の必要性を具体策を交えて解説した。診療所にかかわる改定内容に一喜一憂するのではなく、地域の人口動態、産業構造を踏まえた上で医療制度全体を俯瞰的に捉え、自院との関係を考える大切さを繰り返し説明した。在宅復帰



の促進、在宅医療を担う医療機関の確保と質の高い在宅医療の推進には、病診連携が欠かせない。診療所側から積極的に病院の地域連携室へ営業に行く事、自院の患者が入院した時は見舞いに出向くと同時に病院医師との連携強化を考える事。また、介護事業者との連携の重要さに気づいていても、対処していない診療所が多い事も指摘した。医業経営コンサルタントには、それぞれ地域の医療福祉資源を生かした、診療所の経営サポート、提言を期待したいと同氏はまとめた。
(本部広報委員 藤井 康彦)

広島県支部医業経営セミナーアンケートより [回答97件(会員28件 医療関係55件 一般企業13件 その他1件)]

主な回答

- ・2025年問題に向かって、内科診療所としてどのような対策をとればよいか大変参考になりました。ケアマネジャーと親しくすること、総合病院の先生と親しくすることが大切である事を知りました。
- ・今回の改定の意味、今後の方向性をとてもわかりやすく聞く事ができました。
- ・自院の現状分析をまずやりたいと思います。通所リハビリステーションも考えてみたいと思います。
- ・今回の診療報酬改定で、自院の点数になる事ばかり考えておりましたが、病院と連携していけるかという事が、ブランドになるという考えに気付かされました。
- ・新規クリニック開院予定。往診、在宅医療を進める計画なので、改定のポイントが聴けて参考になりました。
- ・地域の病院、クリニック、人、モノ、金の流れ→「想像してみる、今から11年後」というメッセージは、これから意識して活用します。
- ・今回の診療報酬改定の意図がよく理解できました。
- ・地域包括ケアの重要性。周りの環境、現在の患者の年齢構成、居住地(エリア)の確認など今後の活動に役立てます。
- ・ポイントを絞り、経営に資する項目を丁寧に説明いただきありがとうございました。
- ・豊富なデータとコンサル経験から説得性のある内容をご説明いただきとても参考になりました。